



Vol.42

ゆうことみゆきのふくふくトーク ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソノコ(=お便り)形式で
語り合います。

イラスト/安田千夏

シヌイエ(いれずみ)



アイヌ民族博物館の常設展示
に、江戸時代に描かれた巻物「蝦夷
島奇観」の一節「女夷の図」が展示されてい
る。女性の口元や手に青色で表現された
シヌイエがひと際目をひく一枚です。

かつて、シヌイエはアイヌ女性に生まれ
ら必ずおこなったもの。いわゆるアイヌ女性
の通過儀礼で、シヌイエのあることが一人前
の女性である表徴とされていたの。

顔や手に施されるシヌイエは、美しく魅
力的なものという美的要素の一つとされて
いた他、シヌイエをすることで悪い病気に
かからない、病気が治る、という病魔除けと
考えられていたことも。また、亡くなったと
き、シヌイエが無いと先祖のところへ行くこ



とができず、地獄に落とされるとの考えも
あって、無い場合は煤でシヌイエの文様を描
いて埋葬することもあったんだって。その他
にも、シヌイエが無いと神に対して不敬にあ
たるとして大切な儀式にも出ることがで
きないなど、シヌイエにはいろいろな意味や
考え方があったんだよね。

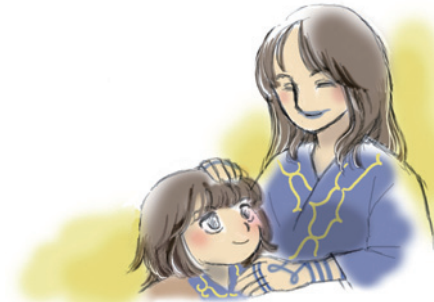
シヌイエを施す年齢にはそれぞれ個人差
はあったようですが、七、八歳ぐらいには口
元からはじめ、数回にわたって何度もおこ
なわれ、十六、七歳くらいまでには手や腕ま
でも完成させたとのこと。

シヌイエは生活に必要な技術を身に付
け、子供を産み育て、何ものにも負けない精
神力をも備えた心身ともに大人であるとい
う証。世が世であれば、私もアイヌ女性と
して美しいシヌイエがあったんでしょね。



明治四年に政府はアイ
ヌ民族に対してシヌイエを
禁止しました。でも、その習俗が
完全に失われたわけじゃなく、シヌ
イエを入れた数名のフチ(おばあさ
ん)たちが、比較的最近までご存
命でした。海外の先住民族社会で
は、今でもいれずみの習俗が受け
継がれていたり、あるいは民族的ア
イデンティティの象徴として復活

とができず、地獄に落とされるとの考えも
あって、無い場合は煤でシヌイエの文様を描
いて埋葬することもあったんだって。その他
にも、シヌイエが無いと神に対して不敬にあ
たるとして大切な儀式にも出ることがで
きないなど、シヌイエにはいろいろな意味や
考え方があったんだよね。



の兆しがみられるとのこと。二〇三年、ニ
ーゼーランド先住民族のマオリの女性が、い
れずみを理由に北海道内の温泉施設で入
浴を拒否されたという出来事があったよ
ね。固定観念に基づくマニュアルの対応なん
でしょうけど、伝統文化としてのいれずみに
ついて日本社会がもっとちゃんと理解してい
たら、対応も違ったんじゃないかな。

ところで、「いれずみって墨で染めたの？」
って訊かれたことがあるんだけど、かつての
アイヌの人たちは、主としてシラカバの樹皮
を燃やして煤を取り、それを塗り込んで色
をつけたの。シラカバの代わりに他の木の皮
を使うなどいくつかのバリエーションはあっ
たみたいだけど、シラカバの煤はとりわけ青
黒くきれいに染まるんだとか。

以前、アイヌの女の子を主人公としたコ
ミックが出版されました(『ハ
ルコロ』一九九二年潮出版)。
そのシヌイエの部分では、女
の子たちの期待感と恐怖、
痛みまでもが瑞々しくコミカ
ルに描かれていて、私は大学
の授業でも使ったくらい。そ
れぞれの民族にはそれぞれ
の文化的価値観に基づいた
習俗があることを、シヌイエ
から学ぶことができます。●

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。元アイヌ民族博物館学芸員。現在は同館でアイヌ若手育成事業の自然講座講師を務める。